

ささえてくれた人たち

五十嵐 美帆

1
十月二十三日午後五時五十六分にとっても大きな地震がおきた。電気がきえ、まわりが暗くなつた。そして、ガタガタガタと大きな音がなつた。少しゆれがおさまつたらすぐ外にひなんした。三日後にヘリコプターにのつて長岡の体育館へひなんした。いろいろなところからたくさんさんのしえんぶっしなどがとどい

2
た。体育館でひなん所生活をしていて大きな余震が何度もおきたのがこわかつた。そしてボランテニアの人たちがたくさんきてくれた。最初は、
(この人たちだれだろう?)
と思つて心配だつた。でもボランテニアの人たちが、
「いっしょに遊ぼうよ。」
など声をかけてくれた。だからあまり心配ではなくなつた。毎日ボランテニアの人たちと

遊んでいたらだんだんボランテニアの人たち
と仲よくなってきた。でも、ひな人所から仮
設住宅に移動することになった。その時、私
は、

「もう、ボランテニアの人たちとあえなくな
るのかなあ。」

と思った。でも仮設住宅にきてからも、ボラ
ンテニアの人たちが遊びにきてくれた。ボラ
ンテニアの人たちは集会所でクリスマス会な
どたくさんひらいてくれて、私たちを楽しませ

てくれた。

私は、しえんぶっしをもらってとてもたす
かった。それから、手紙をくれる人もいた。

手紙をよんでいると明るい気持ちになっ
たり、うれしい気持ちになったりした。

（こんなに私たちのことを心配してくれてい
るんだあ。）

と思った。しえんぶっしをくれた人や、手紙
をくれた人や、ボランテニアの人たちはとて
もいい人だなあと思った。そういう人たちが

6

5

いるから私たちは安べして生活を送ること
ができたんだなあと思いました。

た
た
た